

社会科学習指導案

6年3組 30名 指導者 新名主 洋 一

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 授業で活用した「思考スキル」や「見える図」は、思考力・判断力・表現力を育成するのに有効であったか。
- 協同的な「学び合い」は、考えを再構築するのに有効であったか。

1 小単元 天皇中心の国づくり (大単元 1 日本の歴史)

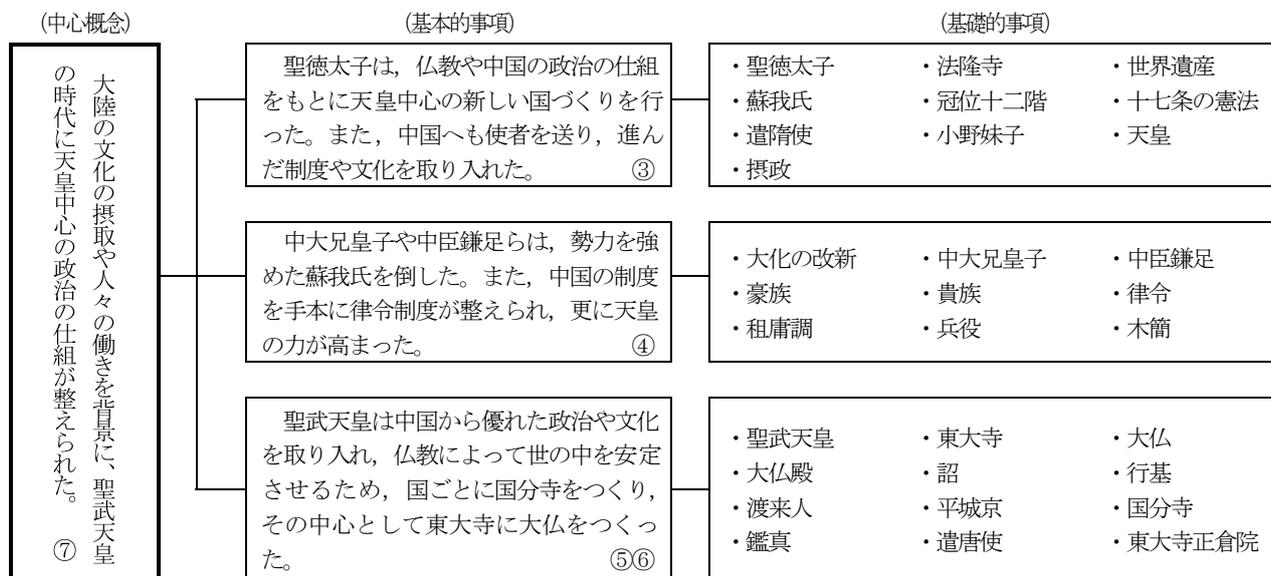
2 目 標

大陸文化の摂取や大化の改新、大仏造営にかかわる人物の関わり等を進んで調べ、天皇を中心とした国づくりの過程を理解すると共に、それらに関わる人物の願いや働きが分かるようにする。

3 小単元の評価規準

- 天皇の中心の政治が確立されてきたことに関心をもち、年表や写真、絵図などの資料をもとに、進んで調べようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 聖徳太子の政治や大化の改新、聖武天皇の政治を関連付けて考え、天皇を中心にした国づくりがどのように行われたのか考えることができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- 年表や写真等の資料を活用しながら、天皇中心の政治の様子や大陸とのつながりについて読み取り、適切にまとめることができる。 【観察・資料活用の技能】
- 聖徳太子や大化の改新によって天皇中心の政治の仕組が整えられ、聖武天皇の時代にそれが確立したことが分かる。 【社会的事象についての知識・理解】

4 小単元の構造について (概念構造図) ※ ○数字は時数



5 小単元について

(1) 小単元の価値

本小単元は、学習指導要領の第6学年の目標 (1) および (3) の一部を達成することをねらいとして設定した。聖徳太子が中国の制度を手本に天皇中心の国づくりを進め、それが大化の改新や律令の制定等によって、聖武天皇の時代に天皇中心の政治の仕組が確立したことが分かるようにすることをねらいとする。また、我が国の歴史について観点を決めて調査し、年表や写真、絵図などの資料を効果的に活用し、調べたことを表現することで、先人の業績や代表的な文化遺産について我が国の発展に果たした役割について考える力を育てることをねらいとして設定した。

聖徳太子は、天皇中心の国づくりを進めるにあたり、仏教の教えを基に冠位十二階や十七条の憲法などの制度を整え、律令国家の基礎を築いた。その後、大化の改新によってさらに律令制が進み、701年に制定された大宝律令によって律令制度が成立し、聖武天皇の時代には天皇中心の中央集権国家ができあがった。為政者が法を整備し、国家を統治するためにその法を改革していくという手法は政治の基礎であり、現代の政治にも通じている。すなわち、この小単元の学習内容は単なる歴史的事象ではなく、社会の仕組を知ることにもつながり、公民的資質の基礎を養うことにつながると考える。また、中国から伝わった仏教が、この時代に国を治めるために利用され、制度だけでなく文化にも大きな影響を与えたことを学習することで、我が国の伝統や文化を大切にしようとする態度を形成することにもつながる。

7 本 時 (7/8)

(1) 目 標

これまで学習してきた天皇中心の国づくりについて、聖徳太子の働きや大化の改新、律令制などを関連付けながらまとめることができるようにする。

(2) 評価規準

聖徳太子の功績や大化の改新、また、律令制の確立によって聖武天皇の時代に天皇の力が全国へ及ぶようになったことを関連付けて考え、まとめ文で表現している。 【社会的な思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

本時は、「まとめる・生かす」過程の第1時で、これまで学習したことを関連付けながら、聖武天皇が強い力をもつに至った理由を考えることを意図して設定した。

そこで、本時の「調べる」過程では、まず、本小単元で登場した人物の業績を確認する。そうすることで、小単元で学習したことの全体を見ることができ、人物の働きや願いを関連付けやすくなる。次に、関連付ける際は、「見える図」を活用させる。そして、「見える図」を基に根拠を明確にさせた上で、聖武天皇が強い力をもつようになった理由をグループや全体で話し合う。この際、律令制の役割に気付いている子どもの意見を採り上げ、律令制の確立が天皇中心の国づくりに大きく関わっていたことにも気付かせたい。最後に、まとめ文を書かせ、本時で考えたことを明確にさせることで、学習問題を解決させる。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時	主 な 学 習 活 動 と 指 導 の 手 立 て ・ 評 価	
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習を振り返る。 〔 ・ 聖武天皇は、大きな力をもっていたな。 ・ 天皇中心の世の中で、人々は貧しい暮らしをしていたな。 〕	○ これまでの学習を振り返ることで、本時の学習の目的を明確にする。 ○ 学習計画を基に、本時が小単元のまとめの時間であることを確認する。
		2 学習計画を基に、本時のめあてを確認する。 聖武天皇が、なぜ大きな力をもつことができたのか、まとめよう。	
調べる	30	3 小単元で登場した人物の働きや願いについて振り返る。 〔 ・ 聖徳太子は、仏教の教えを生かしながら、天皇中心の国づくりを進めた。 ・ 中大兄皇子と中臣鎌足は、天皇中心の国づくりを進めるために、大化の改新を行った。 ・ 聖武天皇は、強い力を使って大仏を建てさせたり、国分寺を建てさせたりした。また、中国へ使者を送った。 ・ 行基は、大仏づくりに協力していた。 ・ 鑑真は、中国から正式な仏教を伝えた。 〕	○ 本小単元で登場した人物の業績を確認することで、天皇中心の国づくりがどのように行われたのか、関連付けることができるようにする。 ○ 個人で考えさせる際、「見える図」を活用させ、それを基に理由が説明できるようにする。 ○ 律令制は、その役割に気付いた子どもの意見を採り上げる。
		4 人物の働きや願いを関連付け、聖武天皇が強い力をもった理由を考える。 関連付ける 〔 ・ 聖徳太子が進めた天皇中心の国づくりは、中大兄皇子、中臣鎌足らにつながっている。 ・ 律令制も天皇の力を強めるためには大切ではないかな。 〕	
まとめる・生かす	10	5 考えたことを、グループや全体で話し合う。 〔 ・ 中国の進んだ制度や文化を取り入れて国づくりを行っている。 ・ 仏教も大きな影響を与えている。 〕	※ これまでの話し合いをもとに、天皇が強い力をもつようになった理由をまとめ文にまとめることができたか。(ノート、発表) ○ うまくまとめることができている子どもには、律令制や仏教が果たした役割を考えさせる。 ○ うまくまとめることができていない子どもには、人物の働きの共通性を考えさせる。
		6 まとめ文を書き、本時の学習についてまとめる。 聖徳太子が始めた天皇中心の国づくりは、大化の改新が行われたり、律令制ができたりしたことなどから、聖武天皇の時代に確かなものになり、聖武天皇は大きな力をもつこととなった。	
		7 本時の学習を振り返り、次時の学習を確かめる。 〔 ・ 天皇中心の国づくりは、様々な人が関わり、それがつながっている。 ・ 天皇中心の政治は、いつまで続いたのだろう。 〕	